

「神様の計画 ～御言葉の種～」

マルコ 4:1~20

「ことば」に隠された奥義

今の社会の子どもたちに、わからないことをわかりやすく映像を使って授業をしても、話を聞いていながら「わからない」と口癖のように言います。問題定義について映像を見せても、自分に始めから問題がないと思えば理解しようとしなくて済むこともできません。

日本は文学の国と言われてきました。人は一つの言葉を大事ないのちの言葉として、よく考えて相手に語りました。昔からある多くの書物の言葉は非常に深く、そしてそこには多くの“奥義”が隠されていました。新約聖書の中でイエス様はたとえ話をういて奥義として明かしているのです。ではなぜ、たとえで話しをしたのでしょうか？

イエス様は一人一人の名前に、また言葉には意味があると伝えました。しかし多くの人は理解できなかったのです。そして人々がメシヤとしての存在を否定したので、イエス様は計画の中で奥義を言葉ではなく、たとえで使われるようになりました。今の社会は環境、言葉が時に人を傷つける道具になり人を悟れなくさせてしまいました。神様は、もう一度言葉の回復をしようとしているのです。

たとえで語られるイエス様

【イエスはまた湖のほとりで教え始められた。おびたしい数の群衆がみもとに集まった。それでイエスは湖の上の舟に乗り、そこに腰をおろされ、群衆はみな岸への陸地にいた。】(4:1) 湖のほとりということばは「湖、海」へブル語ではヤーム。神様は創生の時代に、墮落が人間の中に起こることを理解していました。イエス様キリストはガリラヤ湖のほとりでただ人を集めたのではなく、尊んでそこを選んでいったのです。そして神様はガリラヤ湖で天地万物の地形を見せながら人を集め多くのたとえを話しました。そして人々は現実と、天地万物の環境で奥義を感じたのです。

【ゼブルンは海辺に住み(尊ぶ、あがめられて住む)、そこは船の着く岸辺。その背中はシドンにまで至る。】(創 49:13) イエスキリストはガリラヤ湖のほとりで羊飼いのいない羊たちを見てかわいそうに思って彼らに必要とされて牧会をし、尊ばれました。神様を喜んで求めて来る人には、イエス様はたとえを用いて奥義が語られるのです。それは神の御心が語れるということです。そして、その人達も神に喜ばれ、尊ばれるのです。

神の御心とは

御心には“積極的御心(積極的に主がそうしたいという御心)”と“消極的御心(主の願いではないが主が愛によって受け入れようとするもの)”があり神様は創世記においてアダムが失敗することを知っていたが人間に選ぶという自由意志を与えました。ですから神のことばを聞いて“わからない”を選ぶのは私達ちなのです。

しかし、現実を目にしてわからないと動物のように放っておくことも簡単ですが、私達はそこから神の奥義を感じ選ぶことができるのです。

みことばを蒔く方は神

【種蒔く人は、みことばを蒔くのです。(4:14)】種とは神の「みことば」です。種(ゼラ)とは種類に従って増える、繁栄するという意味があります。【神は仰せられた。「地が植物、すなわち種を生じる草やその中に種がある実を結ぶ果樹を、種類にしたがって、地の上に芽生えさせよ。」そのようになった。(創 1:11)】

主の計画によりバベルの日(バベルの人々は頂が天に届く塔を

建てて名をあげようと塔の建築を始めたが、人の高慢を見られた神の介入によって人々は散らされた。また、異なる言語を与えたので相互理解が妨げられた)に言葉は増殖しました。

しかし、元々言葉は一つでした。「さて、全治は一つの話ことば、一つの共通のことばであった。」(創世記 11:1)とあります。すべての世を照らす真の光が世に来ようとしているこの時に、一つのことばが永遠に変わらない光に変わり増殖したのです。ことばは散らされたが、暗闇の中で語られたことばが光によってもう一度集められるという表現がこの中にあるのです。「ことばは神とともにあった。」から始まるヨハネ 1:1-12 はそのままマルコ 4章だと言えます。聖書は人々が選ばないナザレのほとりのガリラヤ湖に、もう一度ことばを求め尊んで集まる人たちにだけ語られました。

人間は祈ることができます。だからこそ何か物事の判断をするときに私たちは神様のことば(御言葉)を感じて祈らなければいけないのです。

神の国の奥義

【そしてイエスは言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい。」さて、イエスだけになったとき、いつもつき従っている人たちが、十二弟子とともに、これらのたとえのことを尋ねた。そこで、イエスは言われた。「あなたがたには、神の国の奥義が知らされているが、ほかの人たちには、すべてがたとえで言われるのです。」(4:9-11)】

奥義とはミステリー、ミステーション、秘められた、また隠されたものを意味する語です。

私たちの多くの物事には奥義があるのですが感じる事ができません。しかし神様は私たちに奥義を隠してはけません。みことばがあなたの心に奥義を教えてくれるのです。弟子たちが、「なぜたとえ話で話されているのか意味がわかりません。」と聞いたように、私たちがわからないのなら、わかるようにしてくださいと祈りましょう。(4:9) たとえを通して私たちは悟ることができるのです。ですから感じなければいけないのです。楽しい、嬉しいという感覚だけに耳を向けていないのでしょうか。聖書は快樂で得られる楽しいという世の実ではなく、苦難の中に蒔かれた時に、神の実である喜びを味わうのだと教えてくれています。聖書があなたに与えるのは本当の喜びなのです。その喜びを知った人は苦難の中でも喜ぶことができるのです。

さいごに

信仰は聞くことから始まります。自分の中で何が起き、大事な時間を感じないまま、ただ時間だけが過ぎ去ってはいないでしょうか。自分はどうするべきか、どうあるべきなのか聞いていきたいのです。すべての人を照らすまことの光が世に来ようとしていたのに民は受け入れませんでした。(ヨハネ 1:9-11) まさしく今、私たちがしていることかもしれません。神様はあなたにたくさんの言葉を伝えようと多くの「ことば」を語られています。問題が起きてから言葉を知る人生ではなくガリラヤ湖に集まった人々のように尊んで選んでいきたいのです。神様はあなたに何を語っていますか？そしてこの奥義を見つけた人だけがその真理を知ることができます。今あなたがもし神様に聴きたいと願い、立ち上がって祈り求めるならあなたは聴くことができます。

(要約者:西崎 真由美)

(2022年12月4日)